

# 回復期リハビリテーション病棟 食堂から：患者さんと一緒に食べて気がついたこと

(2017JSPENで  
発表)

岐阜勤労者医療協会 みどり病院 薬剤部  
今西正人

【目的】 検食は毎食医師・管理栄養士が行なっているが、当院では給食業務委託後、「味の評価・確認をする」という目的で管理委員会+病棟管理部会（給食委員会）のメンバーも昼食を検食している。通常、検食担当者は自部門または職員休憩室へお盆ごと持参し検食を行っているが、自身は2014年10月からの回復期リハビリテーション病棟開設にあわせ「患者さんと共に食事をする」ことを行い、気がついたことがあったので報告する。

【方法】 検食の担当頻度は概ね月2回：病棟での昼食時間は12時なので、それにあわせて自身も担当の日は12時に休憩時間を設定した。回復期リハビリテーション病棟食堂にて、患者さんの間に入り同じメニューを摂取しながら周りを観察した。



## 【結果】

- ①患者さんは食べるのがとても早かった：誰とも会話せず、黙々と食べていた  
→むせ・嚥下の問題を抱えている方はもちろん食事中にしゃべらない方がよいと思われるが、ほとんどの方が10分以内（12時05分～12時15分）で食べ終わっていた
- ②座った（≒患者さんと同じ）目線からは各スタッフから「監視」されているような印象を受けた  
→セラピスト・看護師ともに立位が多く、常に見回っているが、座った位置から見ると少し違和感があった、またあまり患者個々の訴えまで耳を傾けられていない感じもした
- ③様々な薬の飲み方：個人個人で異なる服用方法を確認することができた  
→これまでは食事時間にあわせて訪室しても、すでに服用後であったり、なかなかタイミングが合わせられなかったことが多かったが、全員が食堂にいるため、一度に観察することができた



## 【考察】

- ①について：もう少し「和気あいあい」としていてもよいのではないかと感じた（我々が小学校時代の給食では「ゆっくり噛んで楽しく食べる」と習った・・・消化吸収の過程からも大切なこと）  
→サルコペニア予防の観点からも、食事の重要性を啓蒙する必要性を感じた  
→会話できる方とは極力会話をし、食事スピードを落とすよう心がけた
- ②について：むせ等をチェックする必要もあるためやむを得ないが、患者からの訴えが届きにくくなっていった可能性もあった
  - 主食 麺の日：カニシューマイ用に添付されていたパック醤油を、「薄味はイマイチだから」ときつねうどんへ投入している方がいた
  - 主食 麺の日：「私だってうどんが食べたいのに、入院してから1度も出たことない」と不貞腐れていた脳梗塞後の方がいた  
→栄養科に確認したところ、入院時嚥下評価後の食形態のまま1ヶ月が経過していたことが判明  
→STに連絡し、再評価してもらった  
→リハが順調な方の入院後の定期的な嚥下機能評価が、システム化されていなかったことが判明した
  - 丼ものの日：自分自身の「とりそばろ丼」に刻んだサヤエンドウが乗っていなかった（※添えるのを忘れていた）・・・他の方と比較して気がついた  
→**食形態・内容が異なるとき、食堂では周りで見比べて気にされる可能性があることを念頭におくべきと感じた**
- ③について：すべての薬を一気に口内へ放り込む人、一粒ずつゆっくりと服用する人、ハサミを使えば器用に開封できる人・・・いろいろな様子を観察することができた
  - バナナを残している方がいた：「嫌いなのか？」とたずねたところ「お口直し用なの」と返答  
→薬が看護師より配られ、漢方薬（お湯に溶かさず服用）の後にバナナを食べたかったことがわかった  
→オブラートで包んで服用する方法を教えた（家族が球形吸着炭を服用していたようで、理解が早かった）
  - 分包品を手と口で開けようとしていた：片麻痺があったため、両手がうまく使えなかった  
→OTに錠剤分包機の空包を渡し、リハ時に開けやすい方法の検証を依頼した
  - 会話の中で薬に関する質問が出たとき、複数の方に共通している薬の解説（≒服薬指導）を一度に行うことができた  
→食後の「ミニ勉強会」ようになった  
→サルコペニアの話も併せて行うことができた

【まとめ】 回復期リハビリテーション病棟は基本的に食堂にて食事をする。病院薬剤師が薬に関すること以外で患者さんと行動を共にすることは少ないので、検食はチャンスと考え実行した。NSTとして「食べて治す」の実現、病院薬剤師として「患者さんのための薬物療法」を考える上で、「患者さんの目線になる」ことは重要である。その一つの方法として「患者さんと共に食事をする」ことは時間内に取り組めることなので、患者さんと信頼関係を構築する上でも効果的であると考えられた。